

勸善 懲惡 讀切講釋

女の奸徳の深たるとの忠臣たる人をそむく  
 無死ものたせんといふ又それを為す我身を  
 ぬぐふ句岩藤が悪計なるる泪の墨  
 染みたる中老尾上が書置おきへ一記念  
 の上草履つとにほりたる草笥のあつら  
 明けぬれぬおはらひを引返したる部家の内  
 身をかきこつたる碎者のたしにこれと奥庭の  
 意恨のぞろも心續まらち打わらへん長質の  
 観音さまを取得し主人の仇を報やうと  
 名もあ婢の初をぞ二代つゞく老職實に誠忠の誓言とあや  
 物 二あやうしと  
 故入 鉤雪  
 法いともたかひあはしこころゆ

大水堂狸屏記



婢 小名門

中老尾上

尾上 五文 後 赤九一

